

ベトナム人・女性採用

技術者確保 日さく、多様性推進

【やじたま】日さく（やじたま市大宮区、若林直樹社長、048・644・3911）は、さく井工事や水関連付設備に関わる技術者のダイバーシティー（多様性）を進める。ベトナム人の技術者を7月に採用したのに続き、現在、ベトナムの日本語学校で技術者7人を研修中。このほか、女性技術者の採用も一段と進める方針。日本国内での技術者の採用難に対応するとともに、在籍する技術者の年齢構成の偏りを正していく。

年齢構成 偏り改善

ベトナム人の従業員は7月に、井戸の付帯設備の設計・施工を担当する技術者として入社し



同時に、ベトナムで現地の大学を卒業した技術者7人を正社員として受け入れるため、現地で日本語の研修を

実施している。すでに入社した2人に加え、入社が内定して研修中の7人、合わせて9人すべてが正社員扱いとなる。

50歳代が多く、20〜30歳代が少ないなど、構成に偏りがある。

当初は、外国人の技術者の採用により、日本国内での人材難を補う考えだったが、「日本人の考え方にない新たな発想を得られる。また、考え方の異なる人材を教育することで、従業員の水準が向上する」（若林社長）などの効果も期待できるといふ。

日さくは約230人の従業員の中、技術者が約150人在籍する。ただ、技術者の年齢を見ると、40〜

日さくが採用したベトナム人の技術者も期待している。

さく井工事といった井戸を掘ることを事業として営んでいる日さくは、日本国内にとどまらず、アジアやアフリカ諸国でも展開している。今回相次いで採用するベトナム人の技術者に関しては、ゆくゆくは海外事業に携わる技術者としての活躍も期待している。